檀主島津豊久の棟札について

宮　下　　愛

はじめに

筆者は，島津家久（島津貴久四男。永吉島津家初代。以下，「家久」）の長男島津豊久（文禄・慶長の役や関ケ原の戦いで活躍。初名は忠豊。通称又七郎。以下，「豊久」）について，文書資料や位牌[1]等から家臣一覧や人物年表を作成し，豊久の動向やその背景を調査・研究してきた。

今回，過去の調査に新たな棟札を加え，さらに考察を深めたい。

各社の棟札

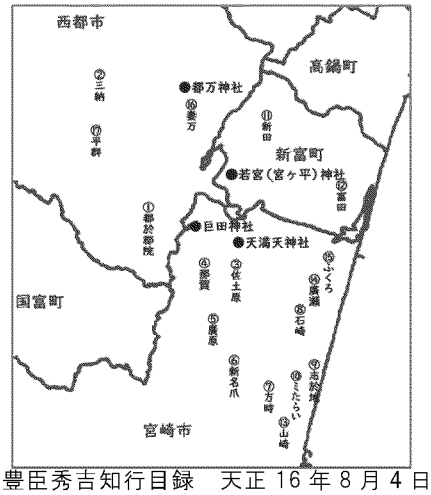
1　若宮（宮ヶ平）神社の棟札【図 2】

豊臣秀吉の九州平定後，天正 16（1588）年，日向国の新たな国割が行われ，急死した父家久の跡目として同年 8 月に豊久は【図 1】の知行地[2]を宛がわれた。しかし，安堵されるまでには，諸大名との間に領地の境界について様々な問題が生じた[3]。最終的に日向は豊久及び高橋元種・秋月種長や島津義弘など中小大名が乱立する状態となる。

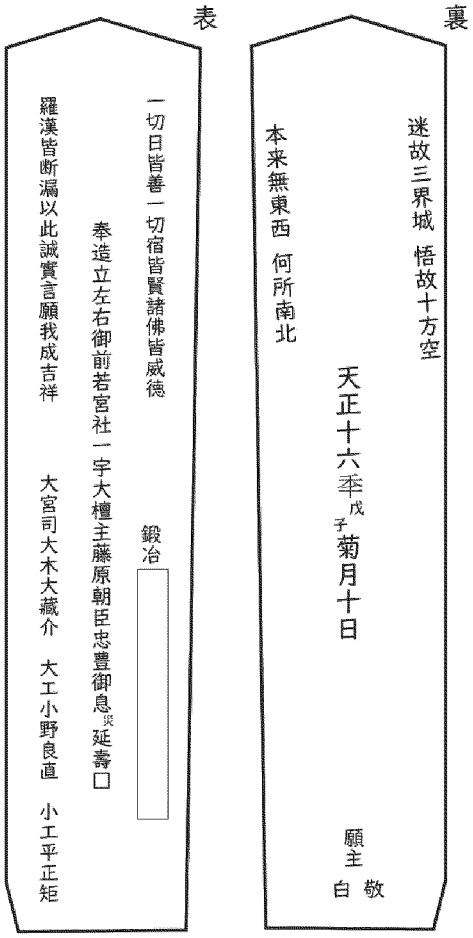
同年に奉納した【図 1】の⑪新田にある【図 2】の札は，豊久の知行目録の裏付けになる資料である。

「一切日皆善」から始まる偈（げ）（仏の徳や教えをたたえる韻文）[4]は方位除けや魔除けである[5]。また，今回とりあげる札の 5 点中 4 点が上幅大の尖頭形で左下が切り取られている「隅切り」及び「鬼門切り」があり，さらに加えればこの仕業も魔除けの為とされている[6]。

以前も拙稿で記したが，「大工小野良直」については，恐らく伊東氏の直属番匠だった小野姓井上[7]であり，【図 4】の札以外の大工はすべてこの番匠が関係していることから，伊東氏が日向から豊後に落ちのびた後，島津氏の建築造営に関わっていたこと[8]がわかる。『新富町史』では札表の字の情報が記載されてはいるが，現在この棟札は，札の表面が削られ墨書等を正確に読み取ることが出来ない。明治の神仏分離の際に人為的に削り消されたもの[9]なのか，または経年劣化によるものかは不明である。



【図 1】豊臣秀吉知行目録　天正 16 年 8 月 4 日付
島津又七郎（豊久）宛による知行地



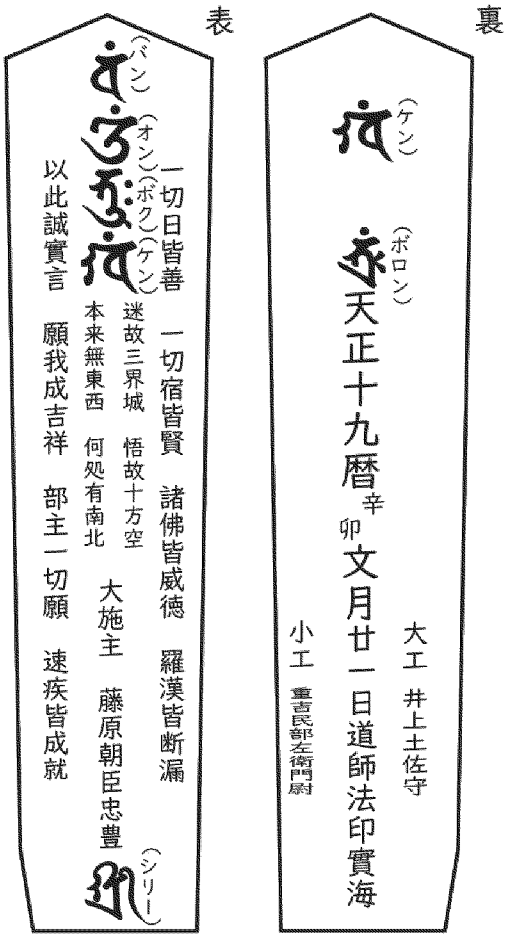
【図 2】　若宮（宮ヶ平）神社所蔵棟札
新富町史　資料編　48－①一部補筆

2 荒田南方(西川諏訪)神社の棟札【図 3】

この札には奉納先の記述がない。先に述べた「井上土佐守」の名前があるので,慶長 5(1600)年の豊久戦死後，佐土原は公領となった為，豊久実弟島津忠直（源七郎）の所領であった菱刈本城（鹿児島県伊佐市）へ遺族及び旧臣が移転奉納[10]したと考えるのが妥当だと思われるが，判然としない。

また「導師法印實海」[11]と僧の名が記載されていることから，法会[12]が催され，その際に奉納されたものではないかと推測されている[13]が，天正 19（1591）年については豊久に関する文書等が少なく，検証することは難しいと思われる。

【図 2】の札と同じ偈があり，それとは別に梵字[14]が記されている。梵字が記されている棟札は,浄土宗・天台宗・真言宗寺院に多いという[15]。



【図 3】　荒田南方神社所蔵棟札
『菱刈町郷土誌　改訂版』P1164 図に一部補筆
（）は筆者による註である

3 都萬神社の棟札【図 4】

都萬神社は日向国式内社であり，かつては密教寺院が付随しており，伊東氏や島津氏など代々の領主から庇護を受けていた。

文禄 5（1596）年は，軍事で多量の木材が国中で消費され，用木の調達が難しい状況[16]であったにも関わらず，再興を行っており，この神社が手厚い扱いを受けていることが窺える。

地頭かと推測される「嶋津藤四郎久祐」については，豊久と姻戚関係である薩州家島津義虎四男島津忠栄である可能性が高いが[17]，忠栄が地頭職であったことは系図等からは確認されていない。

また【図 5】・【図 6】の札にも記載されている「徳田大助」は「垂水諸家畧系譜」[18]によると，近江（滋賀県）出身で織田信長に仕えていたとあり，天正 9(1581)年以降に家久に仕えている。

中央にある「三原重正」の名は家久の家老三原重長の子であると推測する[19]。平田伊賀□□については，家久・豊久の重臣であった通称平田伊賀入道[20]ではないかと思われる。

札の特徴としては,「聖主天中天」から始まる偈があり，中央上部に「△」の記号を冠し，中盤には「人」の字が 5 行 3 列に並んでいる[21]。

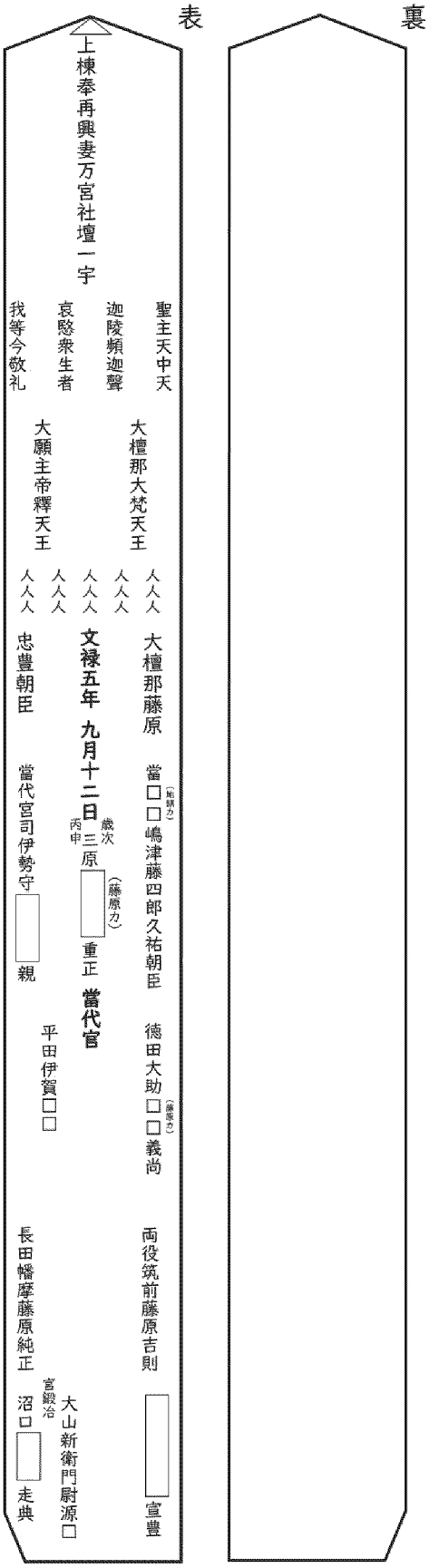
また,【図 4】・【図 5】の棟札は願文や記号などの体裁が作成された時期が近いためか似ている。

4 巨田神社の棟札【図 5】

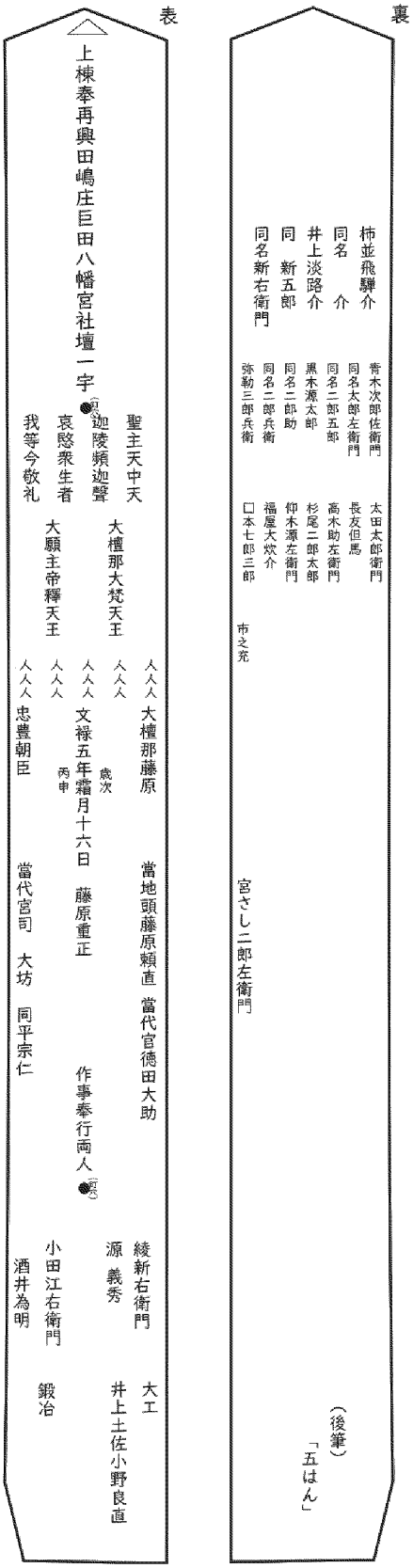
巨田神社は，宇佐八幡宮の荘園である田島荘の鎮守として古くから崇拝され，都萬神社と同様に伊東・島津氏の信仰を集めていた。

地頭の「藤原頼直」については，家久・豊久の重臣で三納・新田の地頭であった相良（旧姓肱岡）頼直[22]と推測される。

作事奉行に「綾新右衛門」の名がある。綾新右衛門とは，伊東義祐の旧臣で，豊臣秀長に見込まれ直臣となり，日向の国割の調査・鑑定を行った[23]であるが，実像については不明な点が多いとされる[24]。この綾氏が「綾新右衛門」と同人であるなら豊臣家から派遣され作事奉行をしていたのか，または，別な理由なのか，その正体や経緯に興味が沸く。



【図 4】　都萬神社所蔵棟札



【図 5】　巨田神社所蔵棟札
「棟札銘文集成:中国・四国・九州編　社寺の国宝・重文建造物等」P365-4 に一部補筆

5 天満天神社の棟札【図 6】

天満天神社は，藩政の時代には連歌の句集を奉納する社であり，東禅寺迫（宮崎市佐土原町下田島）の西側田島古城内にあった天神山に鎮座していたのを現位置に移したという[25]。

この札の年月日と檀那名に注目したい。豊久は，慶長５年２月５日に伊勢貞昌宛に「忠豊」名義で書状を出している[26]。【図 6】も同年に奉納されており，檀那名を「従五位下忠豊」と記載している。関ケ原の合戦で豊久が戦死したとされる３ヶ月前まで豊久は「忠豊」を名乗っていたことが窺える。また，【図 4】・【図 5】では代官だった徳田大助が，【図 6】では地頭として記載されている。しかし，豊久の地頭だったことは系図には記載されていない。

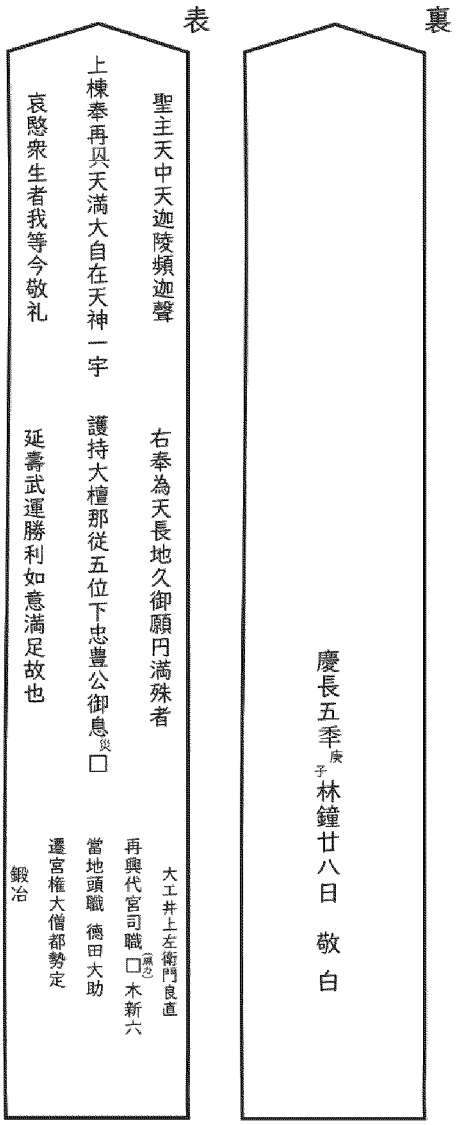
現在この札は所在が不明であり，『佐土原町史』などの記録でしか確認出来ない[27]。

おわりに

今回，豊久の家臣や関係者について，僅かだが知ることが出来た。豊久の家の記録や文書等は焼き捨てられたものもあり[28]，現存している資料は多くはない。しかし，棟札は 400 年以上経過した現在でも豊久が領地を治めていたことがわかる資料として存在している。それは戦争や災害があっても，地域の方に護られ，大事にされてきたからである。

棟札は，建造物が無くなっても残され保存されることが多いことから[29]，領有関係・支配体制・職人の存在形態・寺社の信仰圏・郷村の内部構造など地域に則した当時の情報が知ることが出来る一級資料である[30]。今回調査した棟札の中には，著しく破損や劣化しているものもあった。性質上，御神体に準じて扱われるものであるから難しいと思われるが，可能であれば，保存処置が行えるような手立てとネットワークを確立させ，これから数百年後も後世に残していければと思う。

なお，棟札の写真を収集するにあたっては，新富町生涯学習課樋渡將太郎様及び新田新町区長様，若宮神社氏子の方々，伊佐市社会教育課上田恒静様，西都市教育委員会社会教育課筌瀬明宏様・同総務課長友英樹様，宮崎県佐土原歴史資料館花田想乃香様に多大なるご協力をいただいた。厚く御礼申し上げる。



【図 6】 天満天神社棟札
昭和 56 年に調査した資料に一部補筆

註

（１）拙稿「島津豊久に関する棟札について」（『黎明館だより』Vol.34 No.3），同「島津豊久の位牌について」

（２）『鹿児島県史料　旧記雑録後編 2』（鹿児島県，1982 年）498 号

（３）中野等「豊臣政権と国郡制－天正の日向国知行割をめぐって－」（宮崎県地域史研究 第 12・13 号，1999 年）

（４）広辞苑第６版　電子版

（５）豊島泰国『図説日本呪術全書』（原書房，1998 年）・不二龍彦『呪法全書：知られざる〈秘伝の祈祷〉を全公開!!：決定版』（学研パブリッシング，2012 年）【図 2】の棟札の偈は「何所有南北」となるはずだが，「有」の文字が抜けている。「一切日皆善」から始まる偈は「吉祥」までが佛母大孔雀明王経（山川智應譯『和釋法華經』（新潮社，1937 年））で，「迷故」からの偈は方位除けの祈念文である。

（6）佐藤正彦『天井裏の文化史―棟札は語る』（講談社，1995年）
（7）「宮崎県史　通史編　中世」（宮崎県，1998年）井上氏は宝徳4（1452）年の都萬神社の棟札には，「大工井上土佐介小野氏良直」と記しており，伊東氏の領内全域で活動が確認されるという。
（8）註7と同じ。
（9）註6と同じ。都農神社（宮崎県児湯郡）にある元和3（1617）年の棟札も偈や仏教の守護神の名前がナイフやノミのようなもので削り取られている。
（10）『伊佐市郷土史誌資料集1』（伊佐市教育委員会，2015年）
（11）「三国名勝図会」第4巻（青潮社，1982年）霧島山西生寺に「第六世住僧實海法印」という人物がいたようだが経歴が不明である。
（12）齊藤昭俊『弘法大師信仰と伝説』（新人物往来社，1984年）毎月21日行う真言宗の開祖弘法大師空海の法会を月並御影供という。
（13）『菱刈町郷土誌　改訂版』（菱刈町，2007年）
（14）徳山邨純『梵字手帖』（木耳社，1976年）梵字の意味は，バン＝大日如来，シリー＝吉祥天・仏眼仏母，ケン＝荒神，ボロン＝一字金輪仏頂を示す。オン・ボク・ケン＝大日如来の三真言（大地よ，大空を示す）（大山公淳『秘密仏教高野山中院流の研究』（大山教授記念出版後援会，1956年））だと思われる。
（15）註6と同じ。
（16）「棟札銘文集成:中国・四国・九州編　社寺の国宝・重文建造物等』（「「非文献資料の基礎的研究（棟札）」報告書」（国立歴史民俗博物館，1993年）に記載されている清水寺（島根県安来市）にある文禄4年12月18日付の棟札には「高麗朝鮮國貢渡至于時数百万艘之作船匚（檀）天下之用木無殘」と具体的な当時の状況が記されている。
（17）拙稿「島津豊久に関する棟札について」（『黎明館だより』Vol.34 No.3）
（18）『垂水市史料集（14）』（垂水市教育委員会，2000年）
（19）「諸家系図四」『鹿児島県史料　旧雑記録拾遺伊地知季安著作史料集3』（鹿児島県，2001年）三原重長の二子は豊久の家臣であり、長男九兵衛は庄内で、二男藤七は関ケ原にて戦死している。男子が全て戦死してしまった為、川崎内膳長子を養子に向かえ、跡を継がせて「重正」と名乗らせている。
（20）拙稿「関ケ原合戦後の島津豊久に関する説話について」（「黎明館調査研究報告」第31集，鹿児島県歴史資料センター黎明館，2019年）
（21）註6と同じ。「聖主天中天」から始まる偈は『法華経』の「巻第三化城喩品第七」であり，宗派や寺社の区別なく棟札に多用されている。「△」は陰陽道や修験道の記号であり、佐藤正彦氏は三角座すなわち北天の星、または、「星・月・日」の文字を省略したものではないかと推測している。また今回，「人」について言及している資料を探す出すことが出来なかったが「众（シュウ・オホシ）」という人を三つ合わし，大勢の義を示す意味がある会意文字を記号化したものではないかと推測する。（『大字典（特装版）』講談社，1940年）
（22）註20と同じ。
（23）「都城市史　通史編　中世近世」（都城市，2005年）島津義弘は，拝領予定地の諸縣と豊久の拝領予定地が入り組んでいた為，己の支配領域が不利とならぬ様，重臣上井秀秋に命じて占い日記や堂宮の棟札などの記録を探索させていた。調査を命じられた秀秋は書状の中で「白鳥般若寺邊之棟札ニ，諸県と云二字もかなと申候へ共無之候間」（『鹿児島県史料　旧記雑録後編2』475）と，当時から棟札に記されている内容が支配領域を示すことがわかる。
（24）「清武町史　通史編　上巻」（清武町合併特例区，2016年）
（25）「佐土原町史」（佐土原町，1982年）鬼塚恵光談。
（26）桐野作人「戦いに明け暮れた“静たる大将”の30年」（「歴史群像No.156」学研，2019年）
（27）註18と同じ。
（28）註10と同じ。
（29）註7と同じ。
（30）長谷川博史「中世山陰地域を中心とする棟札の研究」（『2012～2014年度科学研究費補助金　基盤研究（C）研究成果報告書（課題番号24520751）』2017年）

（みやした　あい　資料調査編集員）

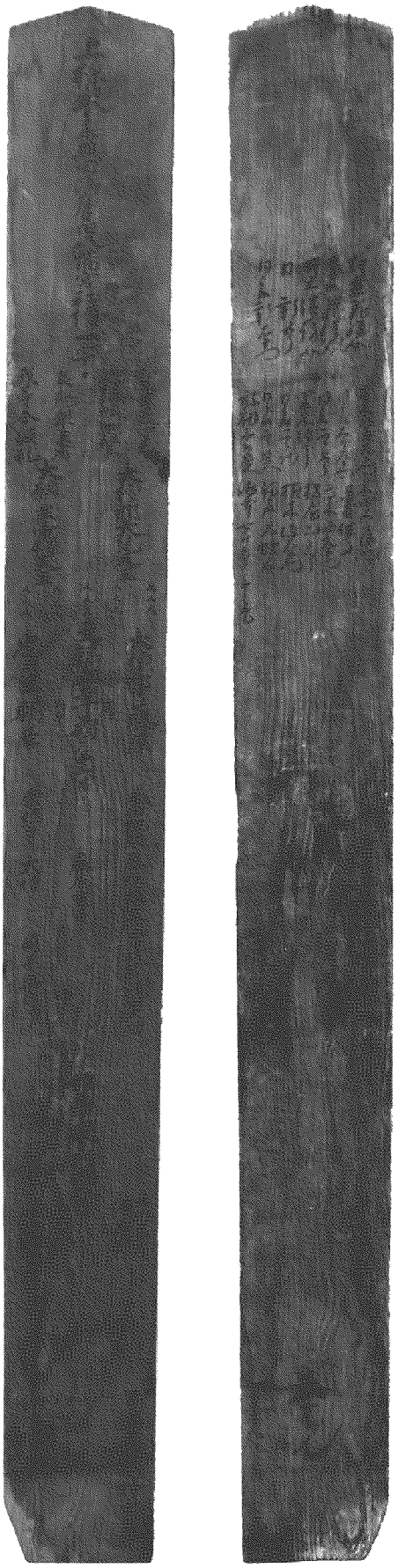
【写真１】若宮（宮ヶ平）神社棟札写真

【写真２】荒田南方神社棟札写真

（写真提供：（表面）伊佐市教育委員会

（裏面）『伊佐市郷土史誌史料集一』から転載）

【写真３】都萬神社棟札写真
（写真提供：西都市教育委員会）



【写真４】巨田神社棟札写真
（写真提供：宮崎市佐土原歴史資料館）

【表】島津豊久が檀主である棟札一覧

番号	1	2	3	4	5
所在地	若宮（宮ヶ平）神社 （宮崎県児湯郡新富町大字 新田宮ヶ平1504－2）	新田南方神社 （鹿児島県伊佐市菱刈荒田 3516）	都萬神社 （宮崎県西都市大字妻1）	巨田神社 （宮崎県宮崎市佐土原町 上田島巨田10732番地）	天満天神社 （宮崎県宮崎市佐土原町上田 島）
指定	ナシ	伊佐市有形文化財	ナシ	重要文化財附指定	ナシ
年月日	天正16（1588）年 菊（9）月10日	天正19（1591）暦 文（7）月21日	文禄5（1596）年 9月12日	文禄5（1596）年 霜（11）月16日	慶長5(1600)年 林鐘（6月）28日
祭神	迦具土神	建御名方尊・事代主命	木花咲耶姫	誉田別命	菅原道真
奉名	奉造立左右御前若宮	ナシ	上棟奉再興妻万宮	上棟奉再興田嶋庄巨田八幡宮	上棟奉再與天満大自在天神
檀主	大檀那藤原朝臣忠豊	大施主藤原朝臣忠豊	大壇那藤原忠豊朝臣	大檀那藤原忠豊朝臣	大檀那従五位下忠豊
願文	息災延壽□	ナシ	ナシ	ナシ	延壽武運勝利
地頭	ナシ	ナシ	嶋津藤四郎久祐	藤原頼直(相良頼直カ)	徳田大助
代官	ナシ	ナシ	徳田大助 □□（藤原カ）義尚 平田伊賀□□	徳田大助	ナシ
作事奉行	ナシ	ナシ	筑前藤原吉則 長田幡摩藤原純正	綾新右衛門 源義秀 小田江右衛門 酒井為明	ナシ
工匠	大工小野良直 小工平正矩	大工井上土佐守 小工重吉民部左衛門尉	□□□□□（宣豊カ）	大工井上土佐小野良直	大工井上左衛門良直
鍛冶	不明	ナシ	宮鍛冶　沼口□□走典	不明	不明
宮司・僧	大宮司大木大藏介	導師法印實海	宮司伊勢守□□親	宮司　大坊　同平宗仁	遷宮権大僧都勢定 再興代宮司職□（黒カ）木新六
記号	不明	ナシ	△及び人	△及び人	不明
偈	「一切日皆善」	「一切日皆善」及び 梵字7文字	「聖主天中天」 五言四句　4行	「聖主天中天」 五言四句　4行	「聖主天中天」 五言四句　2行
外郭	尖頭形　上幅大 左下隅切　釘穴ナシ	尖頭形　上幅大 左下隅切　釘穴ナシ	尖頭形　上幅大 左下隅切　釘穴ナシ	尖頭形　上幅大 左下隅切　釘穴2個	尖頭形　上幅大 隅切不明　釘穴不明
法量	総高87.3cm　上幅11.2cm	総高82.3cm　上幅16.2cm	総高191.5cm　上幅22.7cm	総高152.5cm　上幅16.0cm	総高70.5cm　上幅13.5cm